

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079200111
法人名	有限会社コスモピア公和苑
事業所名	グループホーム コスモピア公和苑
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡香春町中津原瓜迫1160番地の2 (電話) 0947-32-8866

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年9月18日	評価確定日	10月11日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	10人, 非常勤 12人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造平屋造り 1階建ての1階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		933円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	67歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野医院 / 山下歯科 / 丸の内歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の高台にある平屋作りのホームは、広い駐車スペースと隣接地の様々な果樹や苑の家庭菜園などに囲まれ、入居者さんの幼いころの風景が再現されていた。玄関横の母子観音像に黙礼し、一步ホームに入ると季節に応じた花や写真、皆で作られた作品等が飾られている。居室にはゆったりとしたスペースに各自好みの備品がセットされ、その人らしい生活が確保されている。若い管理者を中心に入居者相互の交流や地域との付き合いを深める為、色々な行事を企画し、全員が参加出来るよう、きめ細かな工夫がなされていた。また、その時々写真を掲示するだけでなく、便りに載せ、家族に送付し大変喜ばれている。入居者の皆さんの生活が地域の協力やスタッフの笑顔と暖かな支援でゆったりと、さりげなく自然に展開されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>去年はチェック表が多すぎるとの指摘があり会議を設けて改善した。今回医療連携加算を取り入れ、リハビリに力を入れている。入居者が少しでも意欲を持って参加できるよう、日々の実施表を作成し、回数の多い人を表彰するなど工夫を行い、効果が出ている。医療と介護の連携によって、健康面の管理がアップしている。管理者・スタッフが意欲的なので、今回の評価も十分に検討し、さらにケアの充実を図る方向にある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>自己評価と外部評価の結果をふまえ、改善項目については、ミーティングや運営推進会議・家族会などを通じて、意見交換を行い、改善策に取り組む予定である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に行われている。議題は報告や行事に関するものが多い。多くの参加者の協力を得ているが、メンバーが多く意見がまとまらないという嬉しい悩みがある。まずは、参加して頂けるのが第一であるので、その点は高く評価できる。今後は、認知症に関する勉強会などテーマを設定され、認知症の地域の理解をさらに高めるなど期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見を反映させる為には、グループホーム側に発信してもらうことが大事である。「何か困った事はないか、こうしたら良いなどの提案を是非聞かせてください」など気軽に話す関係づくりが大切である。家族や入居者本人の小さな声を聞き漏らさず耳を傾ける事が何より大切であると思われる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携とは色々な行事に参加するだけではなく、認知症を理解してもらい、支援する人(サポーター)を確保する事も大切である。認知症についての講演を行うなど、地域の認知症に関する理解を高めるための活動も積極的にやっている。是非、グループホームと関わる地域の豊富な人材を活かし、認知症ケアの拠点としての役割を今後も充実されることが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者の人権を尊重し、家庭的な環境で家族としてケアを行うことを理念として掲示している。現在の理念に加え、地域密着型サービスとしての理念の内容が求められ、「地域との交流」など文書として理念に加えることが求められる。		平成18年度の法改正により、地域密着型サービスとしての役割を理念の文書に加えることが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	倫理要綱を壁に掲げ、毎朝職員と唱和して毎日の支援を行っている。職員が理念にそって、入居者へ適切なサービスを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域活動に積極的に参加している。また、グループホームの行事などでは会場の準備や行事へ協力・参加していただいている。近くの手作り豆腐屋さんがいつも届けてくれたり、グループホームからは高齢者ケアなどについて、地域で講演を行うなど地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全員で前向きに取り組んでいる。今回は、評価結果をふまえ、ミーティングや家族会議・運営推進会議を通じて、意見交換を行い、少しずつ改善に取り組み、サービスの向上に努めていく方針である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っている。内容はグループホームの行事や地域行事などに関するもので、サービスの質の向上を目指している。また、メンバーが多すぎて話がまとまらないなど、嬉しい悩みがあるが集まる事が第一なので、今後は、テーマを設定するなど工夫していきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者は運営推進会議に出席し、その際、情報交換などを行っている。市町村担当者への夏祭りや行事への参加の声かけは、いつも行っている。接点を持つことが大切なので、今後もいろんな機会をとられて、声かけは行っていこうと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	家族には権利擁護の書類などで、制度の内容をお知らせしている。権利擁護の内容に関しては、職員が誰でも、理解し説明できることが求められ、権利擁護の研修会や勉強会など、積極的に行うことが求められる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月、定期的に家族通信を発送している。その時に健康状態や金銭出納帳・本人の写真なども添付している。面会に来られた家族には常にコミュニケーションを図り、日常の過ごし方や様子などを伝えている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、その都度取り入れて実行している。また、アンケート調査なども行い、サービスの質の向上に努めたいとの方向があるが、入居者さんの穏やかな様子が何よりもまさる意見の反映ではないかと思われる。これまで以上に家族が気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にしてほしい。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの離職が少なく利用者へのダメージは少ない。職員同士のトラブルや管理者への不満などは入居者は敏感に受けとめられるので極力注意している。基本的には、職員が働きやすい環境づくりを目指し取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用については特に条件はなく、職員の能力アップを心掛け、適宜アドバイスや指導を行っている。今後は、常勤・非常勤を問わず、能力アップを目指し、職員の段階に応じた計画的な職員育成が求められる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の権利・尊厳を守る為の取り組みの1つとして毎日「ありがとうと言える心の10ヶ条」を読み上げている。日頃から管理者自身の座右の銘としている。「認知症の高齢者の人権とは」など、人権に関する研修会などに多く参加し、さらに人権に関する理解を高めることが求められる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	採用時の研修は3ヶ月以内、継続研修は1年に1回と定められており、それ以外にも研修を行ったり、日々の関わりの中での指導を行うなど職員の育成に取り組んでいる。		職員研修は理念を遂行する為の大切な糧である。管理者は計画的な研修計画を立て、職員の能力アップを図ることが求められる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	田川グループホーム連絡会に参加している。連絡会の活動に参加し田川福祉祭りに出店している。連絡会を同業者の意見交換や情報交換の場として有効活用している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前にはグループホームへ見学してもらい話し合いをしながら、雰囲気や支援について理解してもらっている。入居者と話していただいたり、部屋を見学していただいたり、本人・家族が安心して納得できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者は家族の一員として共に暮らすという事を大切にしている。支援する側、される側と言う意識をもたず、支えあう関係づくりを心掛けている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向にそったサービスを行いたいと常に思っているが、本人の意欲低下などで思うように支援できていない状況がある。		認知症の症状により、意欲低下の方への支援は難しい面が多い。しかしながら、行事の際に車椅子を持ち込み、一緒に行事に参加するなど努力されている。個人の意向の把握は、日常の何気ない言葉の中に情報があると思うので、日々の気づきを職員がノートに書いていくなど、意向を把握できるよう工夫が求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者主体の計画作成を心掛けている。また、医療連携の取り組みで医療情報も取り入れた計画作成を行っている。ただ介護計画と看護計画の書面の様式が同じなので介護計画は「問題点」でなく「生活上の課題」などに変更してはどうかと思う。具体策はそれぞれの立場で記入されている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の実施期間を明記して期間終了前に関係者全員で検討している。入院などの場合は状態の変化に応じて対応している。計画の修正は法令で定められている通り、個別的な支援を行う上で大切である。今まで以上、その事をふまえ、対応される事が望まれる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診時、職員が付き添い通院のサービスなどを行っている。介護保険のみのサービスに限らず、入居者の希望や意向にそって、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診が多い。他の疾患は家族との連携を取って希望を大切に受診している。受診は家族が付き添うが、グループホームへの往診もある。今後の留意点として、与薬による副作用などもあるので看護師との連携を密に行って欲しい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化の場合は、早い段階で家族や病院などに連絡し対応している。常に入居者・家族の気持ちを大切に支援している。今後は、医療連携のもと、グループホームの終末期に対する方針や体制をマニュアルや看取りの方針として定めることが期待される。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーについては身体介助時のみでなく、あらゆる場面で心掛けている。個人情報についても配慮している。入居者の人格を尊重する事が何より大切とスタッフ一同が共通理解のもとケアを行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日々の生活では一応の流れはあるが、本人のペースに合わせるよう心掛けている。必ず声かけを行い、意欲低下で無力のまま過ごされないように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は入居者にとって楽しみの一つである。その人のペースに合わせて食事の準備や片づけなど職員と一緒にやっている。無理強いはいらないよう配慮している。食事介助が必要な為、職員は入居者と一緒に毎日食事はできないが、誕生会などは共に食事を楽しむことができるように支援している。検食は必ず行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴も清潔の維持と共に入居者にとって楽しみの一つである。入浴日は決めている(入浴を拒否する人の為)が、基本的に毎日入浴出来るようにしている。また、安全の為、必ず職員が管理できるように設計が工夫されている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	カラオケ・食事の準備・食事の片づけ・家庭菜園や花の水やり・手芸など多岐にわたって支援し、日々の暮らしの中で楽しみごとを見出していただけのように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	買い物や墓参りなど、一人ひとりの要望にそうように心掛けている。大型ショッピングセンターなどへの買い物は入居者の楽しみである。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は玄関はオープンにしている。外来者への配慮としては、センサーでチャイムが鳴るようにしている。入居者の安全面に配慮している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	1年に2回以上の避難訓練を行っている。職員の緊急体制も整えている。その中に、地域住民の協力体制なども運営推進会議などで協議するなど、地域の協力体制を整えることが求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事摂取一覧表に記入し、摂取量の少ない人には栄養缶やジュースで補給している。水分摂取量もチェックしている。入居者の咀嚼・嚥下・食欲等の摂取行動についても個別に支援している。		栄養摂取に関して、献立表を年に何回か、管理栄養士に高齢者に合った食事であるか点検が必要と思われる。運営推進会議に食事面の意見交換をするのも良いかと思われる。献立表におやつも必要ではないかと思う。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ホームの清掃も行きとどいており、季節感を取り入れ居心地良い住まいである。オープンな設計は風通しもよく高齢者への安全面の配慮もされており、快適に暮らす工夫がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	今まで自宅で使っていた品物を持参し、生活の変化を余り感じさせないように工夫している。居室は、それぞれに個性があり、また身体状況にあった配慮がなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			